

9月1日「防災の日」

台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、それらの災害に対する心構えを準備するためとして、1960年に制定された日です。

8月から10月にかけては、台風の接近・上陸が多い時期です。この機会に防災について考えてみませんか。

子吉川出張所では、総合防災訓練を前に土のう造成機の使用練習を行いました。



土のう袋の設置。

設置部に袋をさし込み、土のう造成機にセットします。(先端が鋭いので注意！)



土の量を設定し、土のう袋に土を入れます。



【土のうの役割】

豪雨や台風などの災害時には、水が押し寄せてくることで被害を受けることが多くあります。そのため、土のうを使って水をせき止め浸水を防ぎます。崖崩れなども土のうを使って土砂をせき止め、防ぐことも出来ます。

被害を小さくするには、土のうの迅速な対応が大切です。



土を入れ終わるとクリップで袋の口が結束されます。



まるで巨大なホチキス!?



あとは、ベルトコンベアでトラックの荷台まで一直線!



1個完成まで約20秒!!

梅雨前線や低気圧の影響で県内大雨
由利本荘市でも土砂崩れ、浸水の被害がありました。



河川の増水には十分ご注意下さい。



8/9 撮影

畑中喜右工門慰霊祭

由利町吉沢から国道108号を矢島町方向へ向かっていくと、畑中喜右工門の碑があります。毎年9月7日の命日には地元の有志によって慰霊祭が行われています。

この碑は喜右工門の遺徳をしのんで建てたもので、次のような話が伝えられています。



令和2年9月7日 慰霊祭

万治元年一六五八年
滝沢郷吉沢村
(由利本荘市吉沢)

たび重なる洪水に苦しむ村人たちに心を痛めた喜右工門は、川の改修を代官所に訴えます。しかし代官は、これを強訴として捕らえ、農民煽動(のうみんせんどう)の罪で打ち首の刑を命じます。

死にあたって喜右工門はこう言います。
我亡き後も霊魂はここにどまり、必ず川の流れを変えらるであらう!

その後、豪雨、氾濫、大洪水を経て川の位置が変わり、流れが穏やかになったといわれています。

田地は広々とした美田となり、現在の繁栄をみるようになったそうです。

※参考文献 子吉川

【川の防災情報】URL



◇パソコンから→<http://www.river.go.jp/>
◇携帯電話から→<http://i.river.go.jp/>

◎ご意見・問い合わせ先 子吉川出張所 『せせらぎ通信』担当

由利本荘市石脇字田尻29 電話 0184-22-6360

ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/akita/>

【秋田道川情報STATION⇒(上部タグ)事務所⇒出張所ホームページ⇒子吉川出張所】
または「子吉川出張所」で検索⇒ようこそ！子吉川出張所ホームページへ！をクリック